

任意接種ワクチンの小児（15歳未満）への接種

日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会

2015年11月作成

2016年10月改訂

2017年9月改訂

2019年11月改訂

2020年1月改訂

2020年10月改訂

2020年11月改訂

2021年5月改訂

2023年4月改訂

2024年4月改訂

基礎疾患の有無や海外渡航などの状況により、特に接種が奨められる場合のある任意接種ワクチンの接種推奨すべき対象と接種回数を以下に示します。

なお、各ワクチンともに、接種不相当者に該当する者は対象から除きます。

また、健康保険適用に関しては、別途記載します。

対象となるワクチン

	ワクチン名	接種適応年齢	接種適応外の年齢	推奨接種対象者と接種回数
任意接種	インフルエンザ菌b型ワクチン (Hib)	2か月以上	なし	<u>推奨接種対象者</u> ペグセタコプラン投与患者（発作性夜間ヘモグロビン尿症） 註1:5歳未満児に対しては定期接種 5歳以降は任意接種 <u>接種回数</u> 1回（皮下注射）
	23価肺炎球菌莢膜多糖体ワクチン (PPSV23)	2歳以上	2歳未満	<u>推奨接種対象者</u> 2歳以上の全ての肺炎球菌感染症ハイリスク患者（☆） ☆慢性心疾患（チアノーゼ性心疾患、慢性心不全）・慢性肺疾患（高用量の経口ステロイド投与を受けている気管支喘息含む）、糖尿病、髄液漏、人工内耳、鎌状赤血球症などの異常ヘモグロビン症、脾機能低下症、HIV感染症、慢性腎不全、ネフローゼ症候群、免疫抑制療法や放射線治療を受けている者（悪性腫瘍性疾患、白血病、リンパ腫、固形腫瘍）、原発性免疫不全症

	ワクチン名	接種適応年齢	接種適応外の年齢	推奨接種対象者と接種回数
				<p><u>接種回数</u> 最後の PCV13/PCV15 接種後 8 週間以上あけて PPSV23 1 回接種 5 年後に PPSV23 追加接種を検討 (皮下または筋肉内注射)</p> <p>註 1 : PPSV23 既接種者で PCV13/PCV15 未接種の場合 最後の PPSV23 接種後 12 か月以上あけて PCV13/PCV15 を 1 回接種 (PPSV23 については最後の接種から 5 年以上経過していれば再接種可能) 註 2 : 2~4 歳児に対する PCV13/PCV15 は定期接種 5 歳以降は任意接種</p>
	13 価肺炎球菌結合型ワクチン (PCV13)	2 か月以上	なし	<p><u>推奨接種対象者</u> 肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者 具体的には、「慢性的な心疾患、肺疾患、肝疾患、又は腎疾患」、「糖尿病」、「基礎疾患若しくは治療により免疫不全状態である者又はその状態が疑われる者」、「先天的又は後天的無脾症 (無脾症候群、脾臓摘出術を受けた者等)」、「鎌状赤血球症又はその他の異常ヘモグロビン症」、「人工内耳の装用、慢性髄液漏等の解剖学的要因により生体防御機能が低下した者」、または、これ以外で医師が PCV13 接種を必要と認めた者</p> <p><u>接種回数</u> 1 回接種 (筋肉内注射)</p>
	15 価肺炎球菌結合型ワクチン (PCV15)	2 か月以上	なし	<p><u>推奨接種対象者</u> 肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者 具体的には、「慢性的な心疾患、肺疾患、肝疾患、又は腎疾患」、「糖尿病」、「基礎疾患若しくは治療により免疫不全状態である者又はその状態が疑われる者」、「先天的又は後天的無脾症 (無脾症候群、脾臓摘出術を受けた者等)」、「鎌状赤血球症又はその他の異常ヘモグロビン症」、「人工内耳の装用、慢性髄液漏等の解剖学的要因により生体防御機能が低下した者」、または、これ以外で医師が PCV15 接種を必要と認めた者</p>

	ワクチン名	接種適 応年齢	接種適応 外の年齢	推奨接種対象者と接種回数
	4 価髄膜炎 菌ワクチン (破傷風ト キソイド結 合体) (MCV4-TT)	2 歳以 上	2 歳未満	<p><u>接種回数</u> 1 回接種 (皮下または筋肉内注射)</p> <p><u>推奨接種対象者</u> ① 髄膜炎菌感染症流行地域へ渡航する 2 歳以上の者 ② ハイリスク患者 (補体欠損症・無脾症もしくは脾臓機能不全、HIV 感染症) ③ エクリズマブ・ラブリズマブ・スチムリマブ、ペグセ タコプラン又はジルコプランナトリウム治療患者 (発 作性夜間ヘモグロビン尿症、非典型溶血性尿毒症症候 群、全身型重症筋無力症、寒冷凝集素症) ④ 学校の寮などで集団生活を送る者</p> <p><u>接種回数</u> 1～2 回接種 (筋肉内注射)</p>
	A 型肝炎ワ クチン	全年齢	なし	<p><u>推奨接種対象者</u> A 型肝炎流行地域へ渡航する 1 歳以上の者 (滞在期間にか かわらず)</p> <p><u>接種回数</u> 2～4 週間隔で 2 回接種 (初回接種)、初回接種後 24 週をあ けて追加接種 1 回 (皮下または筋肉内注射)</p>
	狂犬病ワク チン	全年齢	なし	<p><u>推奨接種対象者</u> ① 狂犬病の流行地域に渡航する場合で、動物との接触が 避けられない、又は近くに医療機関がないような地域 に長期間滞在する者 (曝露前免疫)</p> <p><u>接種回数</u> 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン 3 回接種 : 0 (1 回目接種日を 0 とする)、7、21 日又は、0、 7、28 日 (筋肉内注射)</p> <p>② 狂犬病が疑われる動物による咬傷などの曝露を海外で 受けた者 (曝露後免疫)</p> <p><u>接種回数</u> 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン 4 回接種 : 0 (接種部位を変えて、2 箇所につき 1 回ずつ、計 2 回)、7、21 日</p>

ワクチン名	接種適応年齢	接種適応外の年齢	推奨接種対象者と接種回数
			5回接種：0、3、7、14、28日 6回接種：0、3、7、14、30、90日 (筋肉内注射)
黄熱ワクチン	9か月以上	9か月未満	<u>推奨接種対象者</u> ① 国際保健規則 (International Health Regulation, IHR) にもとづいて、入国 (トランジットを含む) に際して接種が要求される国へ渡航する月齢9か月以上の者 ② 黄熱流行地域へ渡航する月齢9か月以上の者 (滞在期間にかかわらず) <u>接種回数</u> 1回接種 (皮下注射)
弱毒生おたふくかぜワクチン	生後12月以上のおたふくかぜ既往歴のない者	1歳未満	<u>推奨接種対象者</u> 1歳以上の全てのムンプス未罹患小児 <u>接種回数</u> 2回接種 (皮下注射) 註1：標準的な接種時期 1回目：生後12～24か月 2回目：小学校入学前1年間
季節性インフルエンザワクチン	6か月以上 (一部は1歳以上)	6か月未満 (一部は1歳以上)	<u>推奨接種対象者</u> 全ての6か月以上の小児 <u>接種回数</u> 毎年接種 (6か月～12歳 2回/年、13歳以上 1回/年) (皮下注射)
4価ヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチン	9歳以上	9歳未満	<u>推奨接種対象者</u> HPV ワクチン未接種の9歳以上の男性で接種を希望する者 (小学校6年生から高校1年生相当年齢の女性は定期接種として接種可能、平成9年度生まれ～平成17年度生まれの女性で過去にHPV ワクチンの接種を合計3回受けていない場合は令和4年4月～令和7年3月の3年間、キャッチアップ接種として公費で接種可能、平成18・19(2006・2007)年度生まれの女性は、通常の接種対象の年齢 (小学校6年から高校1年相当) を超えても、令和7(2025)年3月末までキャッチアップ接種として公費で接種可能、それ以外の

	ワクチン名	接種適 応年齢	接種適応 外の年齢	推奨接種対象者と接種回数
				女性は9歳未満を除いて任意接種として接種可能) <u>接種回数</u> 3回接種 筋肉内注射 (0.2.6か月)
	新型コロナ ワクチン	6か月 以上	6か月未 満	<u>推奨接種対象者</u> 全ての6か月以上の小児 <u>接種回数</u> 6か月～4歳： 初回接種3回、追加接種1回 (ファイザー社製 6か月～4歳用ワクチン) 初回接種2回 (モデルナ社製) いずれも筋肉内注射 5～11歳： 初回接種2回、追加接種1回 (ファイザー社製 5～11歳用ワクチン) 初回接種2回、追加接種1回 (モデルナ社製) いずれも筋肉内注射 12歳以上： 初回接種2回、追加接種1回 (ファイザー社製 成人用ワクチン) 初回接種2回、追加接種1回 (モデルナ社製) 追加接種1回 (第一三共社製) いずれも筋肉内接種 註1：追加接種は毎年1回

健康保険適用のあるワクチン

1. 破傷風トキソイド
 - ① 外傷後の破傷風発症予防で使用した場合
2. 狂犬病ワクチン
 - ① 曝露後 (咬傷後) の発症予防で使用した場合

3. 4 価髄膜炎菌ワクチン (MCV4-TT)

- ① エクリズマブ・ラブリズマブ・スチムリマブ投与患者、ペグセタコプラン又はジルコプランナトリウム投与患者に使用する場合

4. 23 価肺炎球菌莢膜多糖体ワクチン

- ① 2 歳以上の脾摘患者における肺炎球菌による感染症の発症予防」の目的で使用した場合

5. B 型肝炎ワクチン

- ① B 型肝炎ウイルス母子感染の予防(抗 HBs 人免疫グロブリンとの併用)
- ② HBs 抗原陽性でかつ HBe 抗原陽性の血液による汚染事故後の B 型肝炎発症予防(抗 HBs 人免疫グロブリンとの併用)
- ③ 血友病患者に「B 型肝炎の予防」の目的で使用した場合(平成 2 年 3 月 30 日付 事務連絡)
- ④ 業務外で、当該負傷を原因として HBs 抗原陽性でかつ HBe 抗原陽性血液による汚染を受けたことが明らかで、洗浄、消毒、縫合等の処置とともに抗 HBs 人免疫グロブリンの注射に加え、本剤の接種が行われた場合
- ⑤ 既存の負傷に HBs 抗原陽性でかつ HBe 抗原陽性血液が付着し汚染を受けたことが明らかで、上記④と同様の処置が行われた場合

6. インフルエンザ菌 b 型ワクチン

- ペグセタコプラン投与患者に使用する場合